

非アルコール性の脂肪肝

「王冠」に似た組織構造

東京医科大学
大塚 栄

東京医科大学大学

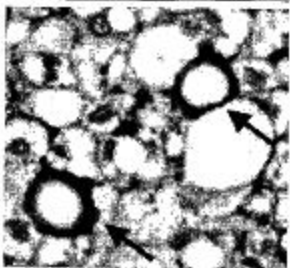
院医歯学総合研究科の小
川佳宏教授と菅波孝祥特
任教授らのグループは、
肝硬変や肝がんへと進行
する可能性のある「非ア
ルコール性脂肪性肝炎」

(NASHL)について、

同疾患に特徴的な組織構
造を発見した。NASHL
の病態解明や新たな治療
法開発の手がかりになる
可能性があると。成
果は米科学誌プロスワン

電子版に掲載された。

NASHはアルコール
をほとんど摂取しない場
合に発症する脂肪肝の一
種。罹患者は国内に10
0万人と推測されるが、
発症機構はよく分かって



発見したNASHL組織の王冠様構造(東京医科大学大塚栄提供)

いない。
グループはNASHLの
特徴的な王冠様の構造を見

つけた。脂肪変性により
細胞死した肝細胞を免疫
細胞のマクロファージが
取り囲んだ構造となっ
ており、肝硬変の原因とな
る組織の線維化が進行す
る過程にあたりと推測さ
れる。同構造の発生を防
いだり正常化したりする
手法を探すことで、NASHLの治療に結びつくと
期待される。